

経営比較分析表（令和元年度決算）

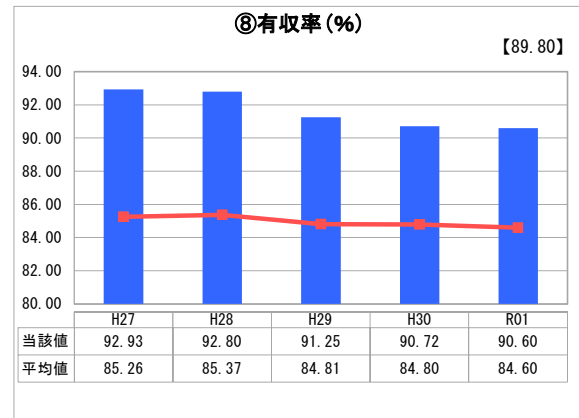
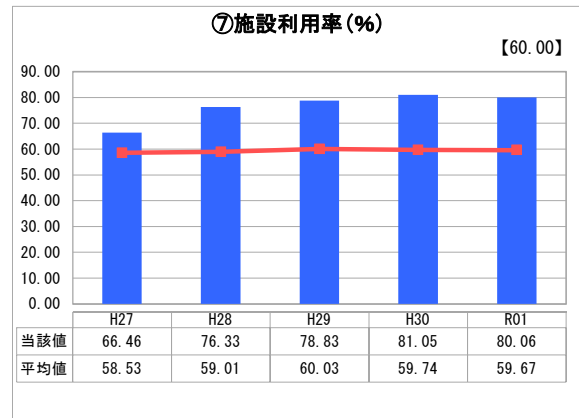
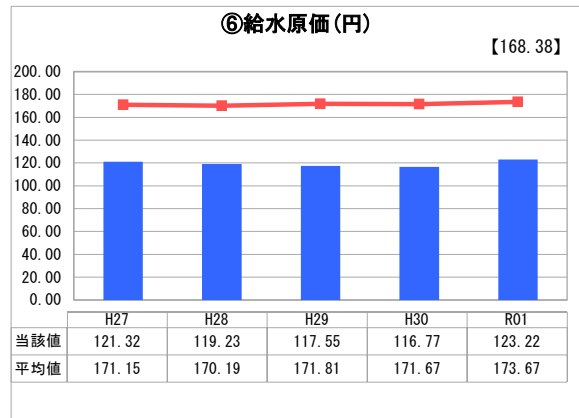
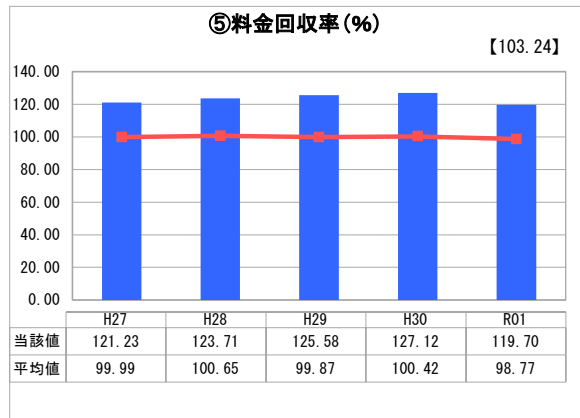
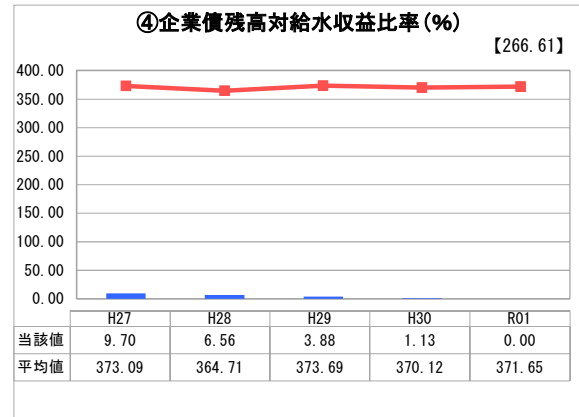
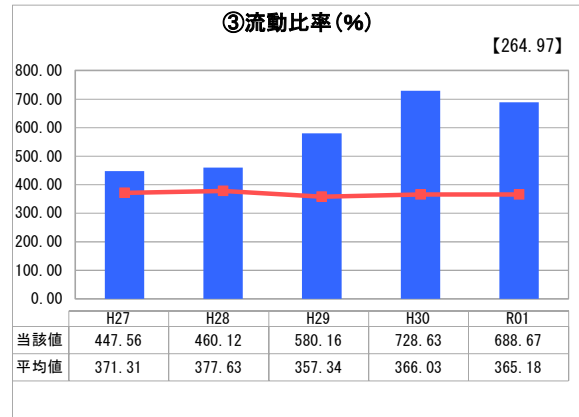
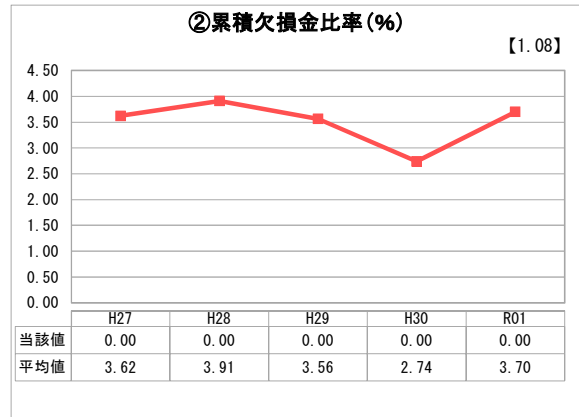
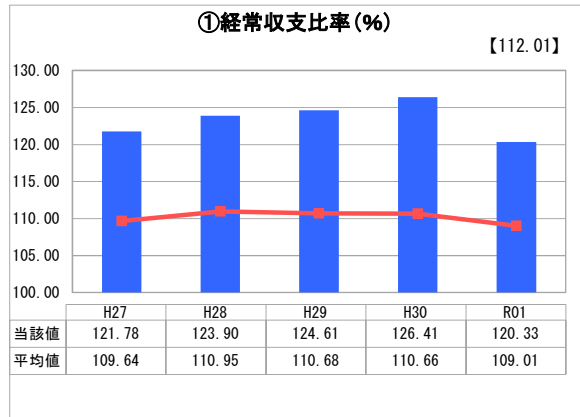
愛知県 幸田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	96.14	99.84	2,442	

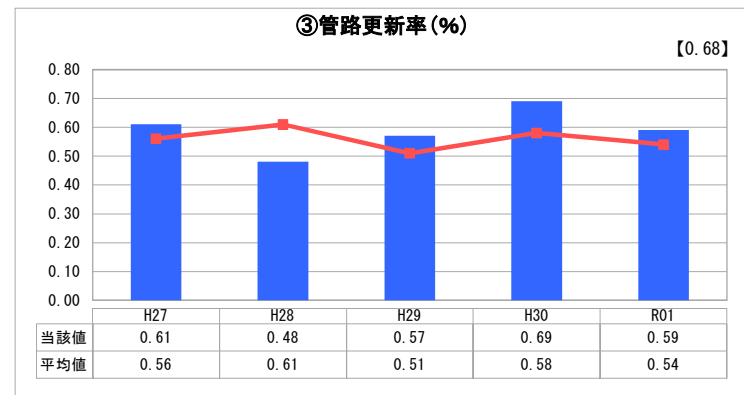
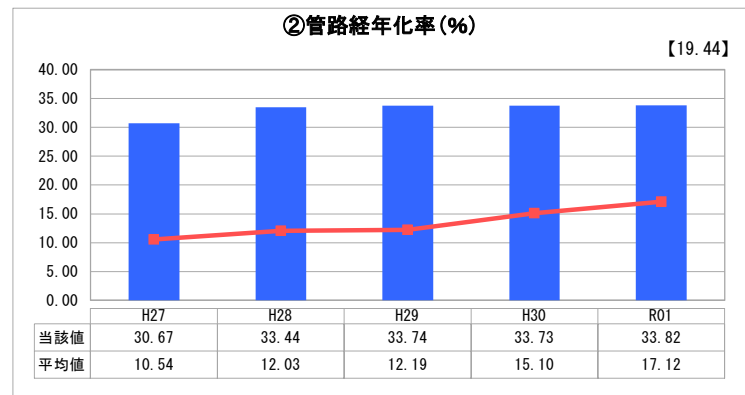
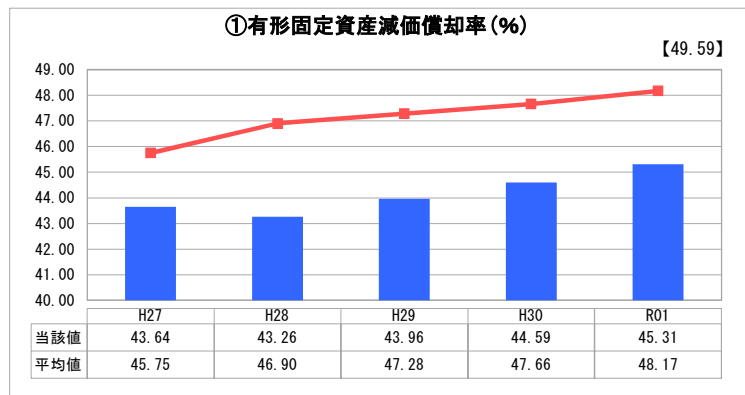
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
42,378	56.72	747.14
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
42,362	54.38	779.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率及び⑤料金回収率につきましては、大口事業者の休止等により給水収益は減少しましたが、いずれも100%以上を維持しており、全国・類似団体平均値よりも高い水準で推移しています。経常収支比率の100%を超えた分につきましては、今後の更新投資に充てるために必要な財源として確保したものであります。また、②累積欠損金は無く、健全な経営が保たれています。

③ 流動比率は、年度末工期の工事費等の未払金の増加によりやや減少しましたが、④企業債残高対給水収益比率につきましては、企業債を完済し新規起債が無く、企業債残高が0のため、指標が0となっています。

⑥ 給水原価につきましては、委託料、減価償却費及び修繕費等の増加により費用が増加したため、昨年度より6.45円上がりましたが、依然全国・類似団体平均値よりも低く、料金収入を得るための費用が安価となっている状況です。今後も効率的な経営に努めます。

⑦ 施設利用率につきましては、平成28年12月に1日最大給水量を18,800m³から16,800m³に変更したことと給水人口の伸びにより年間総配水量が増加し、施設利用率は上昇していましたが、令和元年度は、年間総配水量が減少したため施設利用率はやや低下しました。しかし、全国・類似団体平均値を大きく上回っています。今後も既存施設の能力を効率的に利用して健全な経営状態の維持に努めます。

⑧ 有収率につきましては、自然漏水の増加によりやや低下しましたが、全国・類似団体平均値よりも高い水準を維持しています。有収率の維持向上のため漏水調査を実施し、漏水の早期発見・修繕に努めます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率につきましては、平成27年度稼働のポンプ場関連の整備後もライフライン機能強化等事業等を継続して進めてきましたが、水道事業創設時に集中して整備した管路が法定年数を経過しており、古い管路の布設替工事も充分に進んでいないため、微増となりました。全国・類似団体平均値を下回っています。

② 管路経年化率につきましては、全国・類似団体平均値よりも高い状況にあります。これは、水道事業創設時に集中して整備した管路が法定耐用年数を経過したことによるものです。また、③ 管路更新率につきましては、近年、ライフライン機能強化等事業を進めているところですが、令和元年度は、さらに菱池地内における配水管布設替工事等を実施し、類似団体平均値をやや上回りました。

今後、水道施設更新計画に沿って、中長期的な視点に立った計画的かつ効率的な更新に努めてまいります。

全体総括

経営状況は、給水人口の増加に伴う給水収益の堅調な伸びと企業債完済により健全な財政運営を維持しています。また、老朽化の状況に係る指標からは、水道事業創設時の管路が耐用年数を迎えたことにより、管路の老朽化の進行に対し更新が充分に進んでいない状況が見受けられます。ライフライン機能強化等事業を継続的に進めてきたことなどにより、管路更新率は、類似団体平均値を上回る値を維持しています。

今後、「安全」「強じん」「持続」の観点から、平成30年度に策定した「水道施設更新計画」、令和元年度に策定した「新水道ビジョン」、さらには令和2年度に「経営戦略」を策定し、これらに基づいた老朽管路等の計画的かつ適正な更新を推進し、経費削減や有収率の向上に取り組むなど、健全な事業経営の維持に努めてまいります。